

学校経営のビジョンと戦略を支援する参考図書の紹介 (その1)

「管理職のための学校経営R-PDCA」

～内発的な改善力を高めるマネジメントサイクル～

鳴門教育大学理事・副学長 佐古秀一 著 明治図書



学校には、組織マネジメントの考え方や手法の導入がすすめられ、今や学校管理職の研修の重要な柱となっています。

教育課題が複雑化している現状において、ブラックな職場と言われることもある学校を、教職の誇りと手ごたえをもって、教員が一人一人の子どもに向き合い、実践を探究することができる場とするには、どうすればよいのでしょうか？

教員の献身的な努力としてなされている教育実践が、意に反して抱え込みとなってしまう、教員の孤立と閉塞を強めてしまう学校ではなく、実践を通して教員がつながりを紡ぎ合い、教育実践をともに進めていくことのできる学校づくりは、いかにして可能なのでしょうか。

本書では、このような問題意識と、実践的な研究開発の知見に基づいて、学校が組織的に教育活動やその改善に取り組むこととはどのような学校づくりによって可能になるのかを、具体的に示しています。
(本書紹介文より)

APのねらいは、学校の現状を踏まえ、目指す姿との差である「課題」を明確にした上で共有し、全教職員で課題対応・解決に向けたベクトルを揃え、組織的に課題解決を図る体制をより強固ものにすることにあります。取組の質を高めるためにも、本書は参考になることが多いのではないかと思います。

本書の主な内容



- 1 「チームで」うまくいかない原因を探る：個業型組織としての学校
 - ① 「みんながんばっている」のに学校が変わらないのはなぜ？
 - ② 「組織」として学校をながめてみよう
- 2 子供の実態探究から学校改善にアクションする：共創ビジョンとR-PDCA
 - ① 教育活動の特質と学校のマネジメント
 - ② 共創ビジョンとR-PDCAサイクルの作成
- 3 組織のビジョンと教員のサイクルが元気な学校をつくる：実践例と概念モデル
 - ① ビジョンを共有した実践の交流
 - ② 個人の学びと組織の学びの連環

本書紹介にあたっては、出版社の許可をいただいています。

これからの学校教育の在り方を考えたとき、教員の資質や能力の向上が一つのカギとなることは間違いないところですが、合わせて複雑化してきている教育課題に対応できる学校、そして、急増している若い教員が学び育つ学校をつくっていくことが、重要な課題になってきています。学校が組織として機能することの必要性がたびたび叫ばれているのもそのためです。

組織化の目的は、日々の教育活動を主体的・能動的に改善していくことのできる組織としての学校の実現です。これは、教員が日々の教育活動とその改善に主体的・能動的に取り組む学校であり、同時に個々の教員が取り組む教育活動にまとめ、つながり（組織性）を有する学校です。

本書では、教員の教育活動へのコミットメント（自律性）と、組織としての教育活動のまとめ、つながりをともに実現するための方法論を探究しています。